

たくち じっぱ いったく ひやっぱ いちいん ほと
澤雉は十歩に一啄し、百歩に一飲するも、樊中に畜わるるを期め
しん さかん いえど たのし
ず。神は王なりと雖も善まざればなり。
ゆび まき な きゅう ひつた そ つ し
指は薪を為すに窮するも、火傳う。其の盡くるを知らざるなり。

【大体の意味内容】
だいたい いみないよう

さわべ やせい きじ じっぱ えき ひとくちついは ひやっぱある みず の
沢辺の野生の雉は、十歩あるいてわずかな餌を一口啄み、百歩歩いて露ほどの水を飲む。
せいかつ かご なか かちく やしな もと か
そんなつましい生活だが、籠の中で家畜として養われることを、求めない。飼われれば
えき じゅうぶん しんたい あんてい
餌は十分で身体は安定するであろうが、生きている実感を得られないからだ。

せいめいねんしょう じゅうじつ あた むさぼ あんらく ひた
(生命燃焼の充実は、与えられたものを食ったり、安楽なものに浸されたりしていても、
はつき
発揮されない。)

て うご まき つく ほじゅう ひ つた ひろ りようげん
手を動かして薪を作り、補充することができなくなっても、火は伝わり播がつてゆく。燎原
ほのお けつ つ いのち
の炎は、決して尽きることがない。(命あるものは、ことさら肥え太らせようとはしなく
かなら み まわ
ても、必ず身の周りにあるものを糧として、生命の火を継いで行く。生命燃焼は、賢し
りくつ いよく ひれい つよ おお ひろ ひとびと しんい とき こ せかい
らな理屈によらず、生きる意欲と比例して強く大きく広がる。人々の心意も、時を超え世界
こ つた
を超え、尽きることなく伝わってゆく。)

ALS (筋萎縮性側索硬化症) という重度障碍者の船後靖彦さんが参議院選挙で、山本太郎代
表の政治団体「れいわ新選組」から立候補し、当選されました。

心無い批判をする人もいます。自分のことを自分でできない人が多くの人に迷惑をかけることになる。こういう「社会的弱者」の代弁者として健常な人が議員として活動するのだから、「社会的弱者」本人がしゃしゃり出てくるべきではない、という趣旨です。

いろいろな意見はあるでしょうから、それも一つの立場なのでしょう。これからの展開を通じて、その意見が強まるかもしれないし、認識を改めるようになるかもしれません。

船後さんや、同じ「れいわ新撰組」から当選されたもう一人の木村英子さんも、けいせいそんやうけい頸椎損傷で手足を動かせない重度障害を負いながら、議員活動を始めます。これからこのお二人がどんな「デーパーインパクト」を日本の政界、世界の政治に及ぼすか、注目したいと思います。

すでに、国会の議席についてもお二人が着席できるように改修工事が始まり、介護費用についても、国会議員になったことで国からの援助が打ち切られる中、参議院が費用を負担するという制度変更も行われます。インパクトははじまっています。

政治家としての力量は未知数とはいえ、お二人とも重度障害者でありながら、他の障害者、患者さんたちへの支援活動を行うプレイヤーです。すのうめいせき頭脳明晰な人たちでしょうから、甘く見てかかると後悔することになるでしょう。

船後さんの素晴らしいところは、このような病苦に見舞われた自分の運命を呪うことなく、人生を楽しんでいるところです。呪うどころか「天の恵」として受け入れ、この状況でもかつてバンド活動していたときの様にギターを演奏したいと、脳波で演奏できる技術開発を進めたりもしているとか。

病苦さえ さだめ運命がくれたげーむだと

思える我は 「幸せの王」

船後靖彦。

老子や莊子の思想にもリンクしています。まさに「ひゃくや百谷の王」(数百以上の谷川が流れ込むことで豊かにたか湛えられる大海という王)です。謙虚に、後方で控えておられるであろうお二人が、ここぞという場面でぶっちぎりの飛翔をするという「デーパーインパクト」を、国会にぶちかますかもしれません。

